

## 小学部2グループ 算数科 学習指導案

日 時：平成29年7月1日（土）10時00分～10時45分  
場 所：プレイルーム  
指導者：加藤 俊之（T1），斎藤 明（T2）

### 1 題材名

すごろくをしよう ～10までのかず～

### 2 目 標

- ・すごろくゲームを通して、10までの個数を正しく数える。【技能】【関心・意欲・態度】
- ・5までのものの個数を比べたり、同等の個数に合わせたりする。【知識・理解】【思考・判断・表現】

### 3 児童と題材（研究テーマとの関わり）

#### （1）児童について

本学習グループは3年生2名，4年生2名，5年生1名，計5名で構成されている。本学習グループの児童は，友達の数や時計の数字，絵本の中にでてくる数などを数えたり，読んだりすることを日常的に経験している。具体物や半具体物一つずつ数えて，5まで数えられるようになってきているが，対象物が増えたり，場面や対象，数えるものの位置が変わったりすると，数え間違えたり，数えることに消極的になってしまったりすることがある。様々な物を数えたいという意欲があるものの，日常生活の中で十分に数を活用することに至っていない。数に興味をもち始めている児童たちが，数に対する意欲を更にもてるよう，10までの数概念を十分に身に付けるとともに，身の回りの数に触れる楽しさを積み重ねていく必要があると考える。

#### （2）題材について

本題材で扱う「すごろく」は，これまでに家族や友達と一緒に経験したことがある児童が多く，児童にとって身近で，楽しいイメージのあるゲームである。

「すごろく」では，さいころを振って，その分の数だけ駒を進め，ゴールを目指す。さいころの目を読むときには，直感的に数を捉える課題となり，駒を進めるときには，数詞を唱えながら具体物を操作し，一対一対応を確実にするための課題となる。ゴールが近づいてくると，残り何升なのかと，期待感をもって考えることができる。升目ごとに置かれた課題には，難易度を調整した課題を設定できるため，児童は期待感をもってゲームに取り組むことができる。同じ流れでの活動を繰り返して見通しがもてるようにするとともに，扱う数を段階的に増やしていくことで，児童の実態や習熟度に応じた課題を設定できると考えられる。

「すごろく」を通して，楽しみながら数に触れることができるようにするとともに，児童の数概念を育み，具体物，数詞，数字を結び付けることに適した題材であると考え，本題材を設定した。

#### （3）授業づくりの工夫

物理的環境の整備	教材・教具	<ul style="list-style-type: none"><li>・ゴールまでの期待感と見通しをもってすごろくができるように，盤面全体を見渡せるようにする。</li><li>・さいころの目や，駒の進み方を児童全員で確認できるように，サイコロや駒，升を大きなものにする。</li><li>・集めてきたボールの数や色が合っているかどうかを，友達のものと比較しながら確認できるように，ボールを横一列に並べられるケースを用意する。</li></ul>
	学習活動・場面の工夫	<ul style="list-style-type: none"><li>・期待感をもってすごろくに取り組めるように，一番初めにゴールできた児童に「すごろくメダル」を渡す。</li></ul>
人的環境の整備	児童同士の関わり	<ul style="list-style-type: none"><li>・正誤に自分で気付いたり，友達から教えてもらったりできるように，確認ボードを用いながら友達同士で答えを確認する場を設ける。</li></ul>
	ゲーム中の言葉の支援	<ul style="list-style-type: none"><li>・さいころの目や集めたボールの数に応じて，「同じ」「多い」「少ない」などの言葉を掛け，量を実感できるようにする。</li></ul>

4 指導計画（総時数 18 時間）		
学習内容	時数	主なねらい
<p>「すごろくをしよう」</p> <p>① 色の弁別</p> <p>② 1対1対応</p> <p>③ 6までの個数を数える。</p> <p>④ 直感的に集合数として数える。（3まで）</p> <p>⑤ 直感的に集合数として数える。（6まで）</p> <p>*①～⑤の内容を、数える対象物や場面を変えながら繰り返し学習する。</p> <p>⑥ 具体物を1つずつ分ける。</p> <p>⑦ 10までの個数を数える。</p> <p>⑧ 10までの数のものを分ける。</p> <p>*児童の習熟度に合わせて、⑥～⑩の内容を加えた学習を行う。本時は、⑦の内容を加えた学習を行う。</p>	12/18 (本時)	<p>・数えるものが分かり、自分から様々なものの数を数えようとする。</p> <p><b>【関心・意欲・態度】</b></p> <p>・数詞と対応させながら、様々なものを数える。（10まで）</p> <p>・様々なものが混じっている中から、特定のものを数えながら集める。</p> <p><b>【技能】【知識・理解】</b></p> <p>・友達の人数を数えて、具体物を人数分数えたり、足りない分を数えたりする。</p> <p>・自分の集めたものと友達の集めたものを見比べて、同等多少が分かる。</p> <p><b>【関心・意欲・態度】【思考・判断・表現】</b></p>

5 題材の評価規準と評価基準		
本題材の評価規準		
算数への関心・意欲・態度	数学的な考え方	数量や図形についての技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体物などのものの個数を正しく数えたり、表したりしようとしている。</li> <li>・ものの個数や順番を数を用いて表すことのよさに気付いている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの個数を数えたり比べたりすることを通して、数の読み方、表し方、大小や順序について考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものとものを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。</li> <li>・ものの個数や順番を正しく数えたり、表したりすることができる。</li> </ul>
本学習グループの評価基準		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りのものの数に関心をもって数えようとしている。</li> <li>・10までの数を数え、数詞や数字、指で表そうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や大きさなどが変わっても、数詞、数字、具体物の数は変わらないことに気付く。</li> <li>・10までの個数を数えたり、比べたりして数の大小に気付く。</li> <li>・基準になる数と比べて、いくつ多いか、少ないかを考えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10までの個数を数え、1～10の具体物の集まりを作る。</li> <li>・基準になる数と比べて、同等の数に合わせることができる。</li> </ul>

※本題材の評価規準は国立教育政策研究所教育課程センターの「評価規準作成のための参考資料（小学校）」算数 第1学年【「A 数と計算」の評価規準の設定例】から

## 6 児童の実態（総時数18時間中の12時間）

学年  
性別

実 態

題材の目標

A  
3年  
女



- ・少し離れた場所のものを数えるときに間違えることがある。対象物に近づいたり、具体物を操作したりすることで、8まで正確に数えられるようになってきた。

- 数詞を言いながら10までの個数を正確に数える。
- 5までの数の中で多い、少ないが分かり、具体物を操作して、同等の数に合わせる。

B  
3年  
女



- ・自分の課題だけでなく、友達の様子にも興味を示しよく見ている。
- ・小さな数であれば、1個多い、少ないなどの判断ができるようになってきた。

- 6までの数を直感的に捉えて、指を使って示す。
- 10までの数の中で、具体物を操作しながら基準の数と比べて、何個多いか少ないかが分かる。

C  
4年  
男



- ・持ってきたボールの数を、自分で確認して正誤に気付けるようになってきたが、間違いに気付いてもなかなか自分から直すことができないことがある。

- 様々な色の種類が入った籠から、指定された色のボールを10個まで正確に数える。
- 10までの数の中で、具体物を操作しながら、同等・多少が分かる。

D  
4年  
男



- ・周囲の様子を見て、問題の内容を判断することがある。分かっているのに、自分の答えに自信がもてずに、友達の色に合わせてしまうことがある。
- ・直感的に4までの数を数えられるようになったきた。

- 指定された色のボールを10個まで正確に数える。
- ものとものを対応させ、5までの同等・多少が分かる。

E  
5年  
女

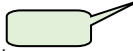



- ・数を数える時に、一度数えたものを再度数えて間違えることがある。
- ・課題が二つ以上になると、考えずに答えてしまうことがある。


- 数詞を言いながら10までの個数を正確に数える。
- ものとものを対応させ、5までの同等が分かる。


7 本時の計画 (総時数 18 時間中の 12 時間)

- (1) 主眼 ・ 声に出したり, 指差しをしたりしながら 8 までの個数を数える。  
 ・ 自分と友達が集めたボールの数を見比べて, 8 を基準とした数の同等・多少が分かる。
- (2) 学習過程

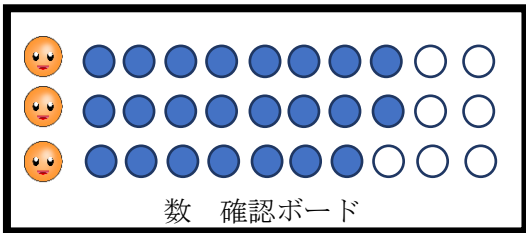
時間	学習活動	○: 期待する児童の姿  : 期待する児童の心の動き →: 教師の働きかけ・留意点
5	1 活動の流れを確認し, 本時のチャレンジ問題を知る。	○本時に学習する数「8」が分かり, 指差しや数唱をしながら 8 個の半具体物を数えたり, 8 を指の数で表したりする。 →正しく数えるためのポイントを「ひとつずつ」「はなしながら」とキーワードで示す。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                 めあて : <span style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px;">8</span> までの かずを ただしく かぞえよう             </div>		
5	2 すごろくの準備をする。	○一つの升に一枚ずつ升目カードを置く。<一対一対応> →升目に 2 枚以上置いた児童には, 間違いに気付けるように, 置かれた升目カードの枚数を一緒に数えて確認する。
25	3 すごろくをする。	○少し離れた場所から, さいころの目を読む。 →注目すべき場所を分かりやすくするために, さいころを振る場所に台を設置したり, 投げる前に「なにがでるかな?」と期待感を高めるような言葉掛けをしたりする。 ○出た目に応じて, 指で数を示しながら数詞を言う。<6 までの具体物, 数詞, 数字の一致> →間違えて数を示している児童がいる場合は, さいころのドットを指差し, 児童全員で数唱しながら正解を確認する。指差した目の数と数詞がずれた時には, 再度 1 から数え直す。 ○さいころの出た目に応じて, 一升ずつ駒を進める。<一対一対応, 数詞> →どこまで進んだかが分かるように, 一升進むごとに「1, 2, 3・・・」と教師と一緒に数唱する。
さいころを振る場面 ① 一人ずつさいころを振る。 ② さいころの目を数えて指で示す。 ③ 駒を進める。 ※升には「★にすすむ」「●にもどる」「チャレンジ問題」の課題を用意する。		<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; width: fit-content; margin: auto;">                 ホワイトボード (すごろく板)  <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">確認ボード</div> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl;">ボールかご</div> </div> <div style="display: flex; justify-content: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">E</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">D</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">C</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">B</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 5px;">A</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; writing-mode: vertical-rl; margin-top: 10px;">ホワイトボード</div> </div>
チャレンジ問題 「8こ あつめよう」		○一つずつ声に出しながら, 8 個ボールを数える。<8 の具体物, 数字, 数詞の一致> →全部で 8 個になっているかを自分で確認できる, 確認ボードを用意する。

ボールを一個いれたら「1」と言おう。

A :   
 ○ボールを籠に入れるときの動作と数唱を一致させて、8個正しく数える。  
**<8までの具体物、数字、数詞の一致>**  
 →6以降の数唱がボールを籠に入れる動作とずれたときには、教師と一緒にゆっくりと数唱しながらボールを入れるように伝える。


B :   
 ○指差しと数唱で確認しながら、8までの個数を正しく数える。**<8までの具体物、数字、数詞の一致>**  
 →指差しと数詞がずれたときには、もう一度初めから数えるように伝える。  
 →数えるときに早くなり過ぎないように、「1、2」と数え始めを教師と一緒に話す。


ゆっくりと声に出して数えると間違えないよ。




○○さんのボールが、みんなとずれているから数が違うかもしれない。数えてみよう。

8個でみんな同じかな。足りない数を数えよう。

C :   
 ○確認ボードを見て、「○○さんが、△個多い(少ない)」と気付いたことを話す。  
**<数の大小>**  
 →「多いよ」などの発言があったときに、「誰の?」「何個?」と考えを深められるような言葉かけをする。

D :   
 ○確認ボードを見て、「1個多い(少ない)」と気付いたことを話す。  
**<数の大小>**  
 →「○○さん!」などの発言があったときに、「誰のが?」「多いの?」「少ないの?」などと考えを深められるような言葉かけをしたり、気になる部分を指差すように伝えたりする。

E :   
 ○ボールを一個ずつ声にだしながら籠に入れて、5个数える。**<5までの具体物、数詞、数字の一致>**  
 →一度数えたボールを重複して数えないように、籠に仕切りを設けてボールを整理する。  
 ※本時は5までの数を目標とする。  
 目標達成後は、教師と一緒に数唱しながら6、7、8の数字の上にボールを置く。

1個ずつ声に出して数えよう。

5	4	めあてを振り返り、正しく8个数える方法を知る。	○指差しと数唱で半具体物の数を正確に数えたり、8個になるように半具体物を加えたり、減らしたりする。 →数唱しながら一つずつ数えたり、友達や基準の数と比べて多い、少ないに気付いて数を合わせたりできた児童の様子を紹介する。
5	5	片付けをしてあいさつする。	・次時への意欲をもてるよう、「次は9個にチャレンジしよう」と期待感を高めるような言葉かけをする。

※本時の評価は、○期待する児童の姿(評価の視点)で評価する。